1400	中 二本中			_

図 19.9 第2度酒皶〔酒皶性痤瘡(acne rosacea)〕 50歳代男性. 鼻から頬部にかけての紅色皮疹.

図 19.10 第3度酒皶 [鼻瘤 (rhinophyma)] 60歳代男性. 腫瘤状となり毛孔が拡大しミカンの皮のような外観である.

2. 酒皶 rosacea

定義・病因

中高年の顔面,とくに鼻部に好発し,びまん性発赤と血管拡張が数か月以上持続する慢性炎症性疾患である.痤瘡様の丘疹,膿疱を混じることがある.

症状

臨床症状と部位により、酒皶は4種類に分類される。中年以降の女性に好発するが、重症例は男性に多い。

①紅斑毛細血管拡張型 (erythematotelangiectatic rosacea), 第1度酒皶

鼻尖, 頬, 眉間, 顔部に, 一過性の発赤が出現する. 次第に持続性となり毛細血管拡張と脂漏を伴うようになる(図19.8). 寒暖や飲酒で症状が増悪する. 瘙痒, ほてり感, 易刺激性などの自覚症状がある.

②丘疹膿疱型 (papulopustular rosacea),第2度酒皶

病状が進行すると、尋常性痤瘡に類似した毛孔一致性の丘疹、膿疱が加わり、脂漏が強まる(図 19.9)、病変は顔面全体へ広がる.

③瘤腫型(phymatous rosacea),第3度酒皶

丘疹が密集融合して腫瘤状となる。とくに鼻が凹凸不整に隆起して赤紫色を呈し、毛孔が拡大してミカンの皮のような外観となる〔鼻瘤(rhinophyma)、**図 19.10**〕.

④眼型 (ocular rosacea)

眼囲の腫脹や結膜炎,角膜炎などを生じる.約20%で皮膚症状に先行する.

病因

原因は不明. 病変部皮膚では自然免疫に関与する TLR2 や抗菌ペプチド [カセリサイディン (cathelicidin) など] の発現が亢進している. これにより日光, 精神的ストレス, 飲酒, 刺激物摂取, 毛包虫感染などの外的刺激に対する感受性が高まり, 炎症や血管増生をきたすと考えられている.

治療

一般に慢性の経過をとり、難治性である。刺激の強い食物や過度の日光曝露、ストレスを避けるよう努める。メトロニダゾール外用やドキシサイクリン低用量内服が有効である。レチノイドの外用ないし内服も行われる。毛細血管拡張に対してはレーザー療法を行い、鼻瘤に対してはレーザー療法や凍結療法、